

花巻商工会議所経営発達支援計画評価会議 会議録

■日 時：平成29年2月28日（火）午後1時～4時

■場 所：花巻商工会議所 地下2階会議室

■出席者：【経営発達支援計画評価委員】

（敬称略）

土岐経営支援事務所 所長（中小企業診断士）土岐 徹 朗

金澤秀晃税理士事務所 所長（税理士） 金澤 秀 晃

花巻信用金庫 理事長 漆 沢 俊 明（副会頭）

花巻市商工観光部 商工労政課長 古 川 昌

【花巻商工会議所】

専務理事 伊藤 隆 規

理事・事務局長 小 山 田 雅 一

企画振興課長（経営指導員） 八 木 浩

経営支援課長（経営指導員） 高 橋 厚

大迫支所次長（経営指導員） 市 野 川 啓

経営支援課長補佐（経営指導員） 佐 藤 孝

大迫支所次長（経営指導員） 菅 野 秀 樹

石鳥谷支所 主任（経営指導員） 菊 池 朗

■会議内容：

- 1、開 会（事務局高橋）
- 2、挨 拶（伊藤専務理事）
- 3、委嘱状交付（あらかじめテーブル上に配布）
- 4、設置要項説明、委員長選出

（委員長 中小企業診断士 土岐徹朗氏を選出）

- 5、経営発達支援計画説明（資料に従って事務局説明）

- 6、協 議

土岐委員長が議長となり協議に入った。

（1）経営発達支援計画に対する評価について

事務局説明後、議長が委員より意見を求めた。

・評価基準について、未着手 E（10%未満）となっているが、少しでも着手していれば D とした方が良い。との意見から、E は0%とし、D を未達成（1%～49%）とすること

とした。

1 地域経済動向調査

- ・HPに景況調査、交通量調査の未掲載があるので留意されたい。
- ・金融機関との情報交換会が目標回数に達しているのにBではない。数値目標に対しては、あくまで実績数字で評価すべきで主観は排除してよいとの意見が多く、数値判断を優先することとした。

*1-(3)をAに変更。その他内部評価の通り。

2 経営状況の分析

- ・会員接触数の割には、分析数が少ない。分析を進める接触を図られたい。

*内部評価の通り。

3 経営計画策定支援

- ・創業スクールの採択要件、予算が厳しくなっているは承知している。今回未着手はやむを得ないが、次の手を考えてほしい。(来年度伴走型補助金で事業申請を検討する)
- ・市が実施している事業との連携を図り実績とされたい。
- ・経営革新の承認で様々な支援策の対象となることを積極的にPRされたい。

*内部評価の通り。

4 事業計画策定後の実施支援

*内部評価の通り。

5 需要動向調査

- ・会議、情報交換会などに出席した実績だけでなく、日頃支援機関などと情報交換したことも記録し実績とすること。
- ・今年行った需要動向調査結果はHP等へ公表されたい。
- ・宿泊した観光客だけでなく日帰り客の調査も検討されたい。

*内部評価の通り。

6 新たな需要の開拓に寄与する事業

- ・ビジネスマッチ東北の成約件数などは把握しているので実績として提供可能。これにより評価をD以上にすることが可能。
- ・商談力向上セミナーの目標は開催回数であり、回数を達成しているのでAで良い。
- ・伴走型支援なのでセミナー後のアンケートを取るなどしてフォローアップにつなげる取り組みが欲しい。
- ・定性的な評価ポイントを加えることも検討してはどうか。
- ・ビジネスマッチ東北の出展者は市の補助金を使っている事業所がある。支援機関として一緒に取り組んでいるので実績にしてもよい。(検証する)

*商談力向上セミナーA。出展支援は商談件数、成約数確認し再評価。出展に関する補助金活用も件数を確認して再評価。その他は内部評価の通り。

II 地域の活性化に資する取り組み

*全て内部評価の通り。

Ⅲ経営発達支援計画の円滑な実施に向けた支援力向上

- ・市内金融機関との情報交換が3回行われて3回出席していればAでよい。来期の評価方法は要検討。
- ・信金本店でよろず支援拠点合同相談会を実施している。連携をとって案内や支援をすることで実績とすることができる。
- ・定例の指導員会議だけではなく日頃の情報交換や打合せ（マル経審査会、その他打合せ）などもカウントすれば隔月どころではないはず。A評価で良い。
- ・定例の指導員会議は、日にち曜日等であらかじめ決めて開催されると良い。

*経営指導員会議 A。その他内部評価の通り。

まとめ

- ・各支援機関と連携をして効率良く進めることで地域の方々のためになって行く。
- ・市、金融機関、会議所、どこが主催とか関係なくタイアップして情報共有しながら進めることが良い。
- ・経営支援ネットワークでの情報共有を上手くすることで有益な情報確保や計画実施に繋がると思う。

この計画では伴走型の支援の実績が見えづらい。スタートアップ支援からフォローアップ支援までの成功例が1社でも出来るように努めて欲しい。

- ・未検証、未実施がないよう努力されたい。

ステージ別支援スキームを基にスタートアップ支援から経営評価まで出来るよう目標として欲しい。

伊藤専務：会員との接触、会議での情報交換などの記録等しっかりと残し、実績に繋げて行く。

(2)その他

その他なく協議終了。

7、閉会（事務局は会議終了を宣した。時に午後4時5分）